

## ヘーゲル日本語文献目録（2018年）

日本ヘーゲル学会文献資料委員会 裕 智樹・山脇雅夫編

### 凡例

1. この文献目録は、2018年に日本において公表された、ヘーゲルに関する文献を可能な限り網羅的に収集しており、日本ヘーゲル学会文献資料委員会・松岡健一郎・山脇雅夫編「ヘーゲル日本語文献目録（2016年～2017年）」の続編である。
2. 文献の配列は次のようになっている。Ⅰヘーゲル自身の著作の日本語訳、Ⅱヘーゲルに関する研究文献、Ⅲヘーゲルに関する研究文献の書評、Ⅳヘーゲル研究の動向紹介、Ⅴヘーゲルに関する文献目録、Ⅵヘーゲルに関する研究資料。さらにⅡに関しては、A研究書、B雑誌・紀要および論文集掲載論文、C外国語研究論文の日本語訳の順で三つに区分してある。但し、複数名の共同執筆者による論文集等は、AとBの両方に重複して記載されている場合がある。
3. 上記の各分野における文献は著者名の五十音順で配置してある。
4. 各文献のデータ項目は、単行本に関しては、著者名（または訳者名）、題名、出版元の名称、刊行年の順で記載してあり、雑誌・紀要等掲載論文に関しては、著者名、論文の題名、掲載雑誌の名称、巻数・号数、刊行年、掲載頁の順で記載してある。巻数・号数に関して、たとえば5巻4号であれば、15（4）と表記した。
5. ヘーゲルに関するものであっても、随筆類、また辞典の項目や哲学史関連の著作に含まれる章節、学会発表要旨・レジュメ、新聞記事等は情報収集が困難なため掲載を割愛した場合がある。

### Ⅰ ヘーゲルの著作の日本語訳

G・W・F・ヘーゲル、『論理学』判断論の訳と注解(1)（赤石憲昭訳）、ヘーゲル論理学研究（ヘーゲル論理学研究会編）、24、2018、p. 63-86.

G・W・F・ヘーゲル、ヘーゲル著『ドイツ国制論』草稿断片 訳と註(6)（早瀬 明）、研究論叢(京都外国語大学機関誌編集委員会・京都外国語短期大学機関誌編集委員会)、2018、p. 99-117.

G・W・F・ヘーゲル、ヘーゲル『精神現象学』饒舌訳の試み(4)（原崎道彦）、高知大学教育学部研究報告、2018、p. 287-310.

### Ⅱ ヘーゲルに関する研究文献

#### A 研究書

阿部ふく子、思弁の胎動：〈新たな啓蒙〉としてのヘーゲル思弁哲学、知泉書館、2018

池永 孝、地球を救う棲み分け的弁証法：葛藤乗り越え蘇る今西理論とヘーゲル哲学のコラボ、竹林館、2018

大田孝太郎、ヘーゲルの媒介思想、溪水社、2018

加藤尚武、ヘーゲルの思考法（加藤尚武著作集第2巻）、未来社、2018

加藤尚武、ヘーゲルの社会哲学（加藤尚武著作集第3巻）、未来社、2018

加藤尚武、よみがえるヘーゲル哲学（加藤尚武著作集第4巻）、未来社、2018

諏訪兼位、若き日のヘーゲル、ながらみ書房、2018

仲正昌樹、ヘーゲルを超えるヘーゲル、講談社、2018

溝口龍一郎、ヘーゲル『精神現象学』の世界、郵研社、2018

南郷継正、哲学・論理学原論「新世紀編」：ヘーゲル哲学形成の認識論的論理学、現代社、2018

嶺岸佑亮、ヘーゲル主体性の哲学、東北大学出版会、2018

寄川条路編著、ヘーゲルと現代社会、晃洋書房、2018

寄川条路、ヘーゲル：人と思想、晃洋書房、2018

## B 論文

飯泉祐介、ヘーゲル哲学における「我々」、倫理学年報、67、2018、p. 135-147.

飯泉祐介、ヘーゲル哲学の時間論：「時間の抹消」の解明に向けて、大阪経済法科大学 21世紀研究、9、2018、p. 73-85.

飯泉祐介、運命の精神、あるいは、精神の運命：ヘーゲル『精神現象学』宗教章の基底、

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部哲学研究室論集、37、2018、p. 52-65.

池松辰男、市民社会における欲求と世界史における情熱 ―ヘーゲル「客観的精神の動態をめぐって」、倫理学年報、67、2018、p. 149-162.

池松辰男、ヘーゲル「精神哲学」における「客観的精神」の構造：「ハイデルベルク・エンツクロペディ」を読み直す意味をめぐって（シンポジウムⅡ 『ハイデルベルク・エンツクロペディ』200年）、ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編集委員会編）、24、2018、p. 108-120.

池松辰男、ヘーゲルにおける「幸福」の取り扱い：「実践的精神」から「客観的精神」への移行をめぐって、倫理学紀要（東京大学大学院人文社会系研究科倫理学研究室編）、26、2018、p. 173-197.

伊藤 巧、1817年以降のヘーゲル自然哲学（シンポジウムⅡ 『ハイデルベルク・エンツクロペディ』200年）、ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編集委員会編）、24、2018、p. 95-107.

岩田健佑、内面化される運命：ヘーゲル『精神現象学』における悲劇と喜劇、哲学論集、47、2018、p. 70-95.

岩田健佑、ヘーゲルの長編小説論：想像力による性格の描写、ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編集委員会編）、24、2018、p. 160-174.

加藤尚武、ヘーゲル「弁証法」の用例研究・中間報告、ヘーゲル論理学研究（ヘーゲル論理学会編）、24、2018、p. 7-27.

川瀬和也、ヘーゲルと英語圏の現代哲学（特集ドイツ近世哲学：私たちにとってのドイツ観念論）、理想、700、2018、p. 121-133.

川瀬和也、『ハイデルベルク・エンツクロペディ』の生成と発展（シンポジウムⅡ 『ハイデルベルク・エンツクロペディ』200年）、ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編集委員会編）、24、2018、p. 71-83.

金 哲雄、ヘーゲルにおける労働概念：レーヴィットの見解を手がかりに、大阪経済法科大学経済学論集、42(1)、2018、p. 81-100.

久保陽一、ヘーゲルと近代化：フクヤマとハンチントンの歴史観との連関において(特集ドイツ近世哲学：私たちにとってのドイツ観念論)、理想、700、2018、p. 134-146.

久保陽一、生の反省と絶対的同一性の体系：『差異論文』の歴史的 position について (シンポジウムⅠ ヘーゲル『差異論文』：思想史的コンテクストの中で)、ヘーゲル哲学研究 (日本ヘーゲル学会編集委員会編)、24、2018、p. 33-44.

倉田 貢、ヘーゲルにおける学的認識と絶対知について：『精神現象学』をめぐる考察、東日本国際大学紀要、23(1)、2018、p. 169-180.

黒崎 剛、『エンツュクロペディ』初版のどこに優位性があるか (シンポジウムⅡ 『ハイデルベルク・エンツュクロペディ』200年)、ヘーゲル哲学研究 (日本ヘーゲル学会編集委員会編)、24、2018、p. 84-94.

小井沼広嗣、ヘーゲルにおける幸福の問題：カントの「最高善」への対応を視角として、法政哲学、14、2018、p. 1-12.

小井沼広嗣、ヘーゲル『イェーナ体系構想Ⅲ』における陶冶と普遍意志の構成：ルソーの国家理論への対応を軸として、社会思想史研究、42、2018、p. 54-74.

幸津國生、「私たち」にとってのヘーゲル哲学：「哲学の欲求」と意識・理念・実在(特集ドイツ近世哲学：私たちにとってのドイツ観念論)、理想、700、2018、p. 95-107.

小島優子、ヘーゲルにおける「贖い」の思想：『キリスト教の精神とその運命』を中心に、立命館哲学、29、2018、p. 1-26.

小島優子、ヘーゲルと日本思想：悪についての比較思想、ヘーゲル論理学研究 (ヘーゲル論理学研究会編)、24、2018、p. 4-6.

小島優子、ヘーゲルにとって悪とは何か、ヘーゲル哲学研究 (日本ヘーゲル学会編集委員会編)、24、2018、p. 5-9.

座小田 豊、「絶対的なもの」の構成はいかにして可能か？：ヘーゲル哲学の歴史性と固有性 (シンポジウムⅠ ヘーゲル『差異論文』：思想史的コンテクストの中で)、ヘーゲル哲学研究 (日本ヘーゲル学会編集委員会編)、24、2018、p. 45-57.

島崎 隆、マルクス主義的唯物論の変貌とヘーゲル・マルクス関係の再検討（特集マルクス生誕 200 年：ポスト・キャピタリズムへ）、唯物論、92、2018、p. 28-44.

島崎 隆、マルクスによるヘーゲル哲学批判の再読(上)（特集マルクス生誕 200 年：マルクスと 21 世紀の現実展開）、季報唯物論研究、145、2018、p. 72-81.

高山 守、シェリングとヘーゲルの善悪論：善と悪の無差別（特集ドイツ近世哲学：私たちにとってのドイツ観念論）、理想、700、2018、p. 2-14.

高山 守、後期シェリングとヘーゲル：善・悪と自由をめぐって（シンポジウムⅢ 後期シェリングとヘーゲル）、ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編集委員会編）、24、2018、p. 147-159.

竹島尚仁、ヘーゲル自然哲学における自然の主観性：機械論を中心に、岡山大学大学院社会文化科学研究紀要、45、2018、p. 227-237.

竹村喜一郎、ヘーゲル論理学「本質論」における世界了解、研究紀要(つくば国際大学)、24、2018、p. 13-36.

田端信廣、コンテクストの中の「差異論文」：ヘーゲルのラインホルト批判、シャトーの「差異」論文書評との関係から（シンポジウムⅠ ヘーゲル『差異論文』：思想史的コンテクストの中で）、ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編集委員会編）、24、2018、p. 58-70.

角田修一、人間の自由と社会的意識形態としての自由主義(5) ホッブズからマルクスへ、ヘーゲルの自由論とマルクス、立命館経済学、67(3)、2018、p. 373-402.

中川玲子、「精神現象学」におけるヘーゲルの芸術哲学(中)、哲学論究(同志社大学哲学会編)、32、2018、p. 23-35.

長島 隆、後期シェリングとヘーゲル：自然哲学の展開可能性について、ヘーゲル哲学研究（日本ヘーゲル学会編集委員会編）、24、2018、p. 22-32.

仲島陽一、ヘーゲルと共感の問題、国際地域学研究(東洋大学国際学部編)、21、2018、p. 67-76.

中島 新、マルクス・ガブリエルの後期シェリング解釈：存在、人間、意識による重層的

アプローチ (シンポジウムⅢ 後期シェリングとヘーゲル)、ヘーゲル哲学研究 (日本ヘーゲル学会編集委員会編)、24、2018、p. 121-134.

早瀬 明、ヘーゲル『ドイツ国制論』を貫く主権への問い(後篇)、帝国の現実と主権、ピュッターマイヤーとヘーゲル、Cosmica : area studies(京都外国語大学機関誌編集委員会・京都外国語短期大学機関誌編集委員会)、48、2018、p. 1-23.

福田静夫、「神の国」の理念とベルン期のヘーゲル(中)、現代と文化：日本福祉大学研究紀要、137、2018、p. 15-37.

藤田貴宏、夫婦財産契約と財産共有制：ヘーゲル『法哲学綱要』第 172 節の法学説史的背景、獨協法学、105、2018、p. 185-222.

三重野清顕、シェリングとヘーゲルの対立をめぐる対話 (シンポジウムⅢ 後期シェリングとヘーゲル)、ヘーゲル哲学研究 (日本ヘーゲル学会編集委員会編)、24、2018、p. 135-146.

南郷継正、『精神現象学 序論』の具体的体系化こそが学問の道である：「日本ヘーゲル学会」への挨拶に代えて、学城：学問への道、日本弁証法論理学研究会編、(16)、2018、p. 13-23.

嶺岸佑亮、ヘーゲルにおけるプラトニズムの問題：再考：アイデアを観ること、文化(東北大学文学部編)、81(1・2)、2018、p. 9-29.

山口誠一、ヘーゲル『精神現象学』「序説」第 36 節~第 37 節の解明：否定性としての主体、法政大学文学部紀要、77、2018、p. 1-12.

山田有希子、「矛盾と無矛盾との〈矛盾〉」としての論理学：私たちにとってのヘーゲル哲学(特集ドイツ近世哲学：私たちにとってのドイツ観念論)、理想、700、2018、p. 108-120.

悠季真理、哲学・論理学研究余滴(6)：ヘーゲル『哲学史』をふまえてアリストテレスの矛盾論を考える、学城：各門への道、日本弁証法論理学研究会編、(16)、2018、p. 62-83.

悠季真理、哲学・論理学研究余滴(7)：ヘーゲル『哲学史』をふまえてアリストテレスの“思弁”への端緒につく過程を考える(1)、学城：各門への道、日本弁証法論理学研究会編、17、2018、p. 65-77.

C 翻訳

エーファ・ボッケンハイマー、マルクスのヘーゲル批判：「神秘的表皮に包まれた合理的核心」の発見へ向けて(飯泉祐介・岡崎龍訳)、唯物論、92、2018、p. 10-27.

ヘルマン・シュミッツ、ヘーゲル弁証法の諸原理としての無限判断と推論(その2)：『個性の思想家としてのヘーゲル』より(鈴木恒範訳)、ヘーゲル論理学研究(ヘーゲル論理学会編)、24、2018、p. 63-86.

チョン=フック・ロウ、ヘーゲルの自由の論理(上田尚徳・真田美沙訳)、ヘーゲル哲学研究(日本ヘーゲル学会編集委員会編)、24、2018、p. 10-21.

### III 書評

### IV 研究動向

アレクサンドル・コイレ、フランスにおけるヘーゲル研究の状況報告(小原拓磨・宮崎裕助訳)、知のトポス：世界の視点、13、2018、p. 99-159.

岡崎 龍、国際学会報告：第31回国際ヘーゲル学会に参加して、ヘーゲル哲学研究(日本ヘーゲル学会編集委員会編)、24、2018、p. 175-178.

岡崎佑香、国際学会報告：第32回国際ヘーゲル学会に参加して、ヘーゲル哲学研究(日本ヘーゲル学会編集委員会編)、24、2018、p. 179-182.

### V ヘーゲルに関する文献目録

松岡健一郎・山脇雅夫、ヘーゲル日本語文献目録(2016-2017年)、ヘーゲル哲学研究(日本ヘーゲル学会編集委員会編)、24、2018、p. 11-22.

### VI 研究資料